

序章

本学は、2015年度に大学基準協会の認証評価（第2期認証）を受審し、2016年3月に「適合」の評価を取得した。

第2期認証までにおいて、本学の自己点検・評価の実施時期と方法については、「大学基準協会の認証評価基準（大学基準および点検・評価項目、以下「大学基準」という）に準拠した自己点検・評価報告書を基に、自己点検・評価（自己点検・評価委員会）、外部評価（大学評価委員会）、認証評価（大学基準協会の大学評価）を一連の検証サイクルとして統合的に機能させる」ことを基本方針として実施してきた。

2015年度の評価取得後、上記の検証サイクルは維持しつつ、第3期認証では内部質保証がより重視される評価となること、また、前回認証評価取得時の講評で「大学の諸活動全般における検証体制については、規程や権限は定められているものの、系統的に整理し、体系的な内部質保証システムの確立に向けて今後さらなる努力に期待したい」と提言を受けたことに鑑み、自己点検・評価委員会は「2016年度以降の内部質保証の取り組みについて」（2016年4月12日大学評議会）に基づき、全学的な内部質保証の取り組みを進めてきた。また、これまで本学においては、「自己点検・評価」に関する体制や実施サイクルが中心であったため、点検・評価を改善・向上につなげる仕組みの強化が重要であると認識し、自己点検・評価委員会を中心とした内部質保証システムを実質化し、質の向上に関する大学の活動を継続的に行うために、1) 内部質保証方針の策定、2) 自己点検・評価委員会で取り扱う事項の見直し、3) IR データを活用した自己点検の追及、を行うこととした（「大学基準協会2018年度からの大学認証評価基準(第3期基準)への対応について」（2018年3月6日自己点検・評価委員会））。内部質保証に関する具体的な取り組み内容等については、本報告書の第2章に記載する。

前回の認証評価結果において委員会から指摘を受けた、努力課題2点（シラバスの精粗、編入学定員未充足）、その他指摘事項14点や、2014年度自己点検・評価報告書に記載した「改善すべき事項」等、個別課題への対応・改善については、管理シートを作成し、年2回開催する自己点検・評価委員会で進捗状況を管理している。管理シートには、課題・到達目標、課題への対応・改善計画（年度単位）、施行状況（期中・期末）、評定（4段階評価：4計画以上に進捗、3計画通り進捗、2計画通りには進捗せず、1ほとんど着手できず）を記載するようになっており、各課題の進捗状況を明確にしている。特に評定が「2計画通りには進捗せず」、「1ほとんど着手できず」であるものについては、自己点検・評価委員会にて集中的に状況確認と対応策の議論を行っている。個別課題への対応・改善状況については、本報告書の関連する章に記載する。

以上のように、本学では前回の大学評価取得以降、改善・向上に向けた取り組みに大学全体として継続的に取り組んでいる。